



## 2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月6日

上場会社名 株式会社 J-オイルミルズ

上場取引所 東

コード番号 2613 URL <http://www.j-oil.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 八馬 史尚

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 渡辺 光祐

TEL 03-5148-7100

四半期報告書提出予定日 2020年8月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	39,005	15.0	1,096	42.4	1,241	40.3	805	55.4
2020年3月期第1四半期	45,895	2.6	1,903	3.1	2,077	3.7	1,807	1.2

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 1,137百万円 (4.3%) 2020年3月期第1四半期 1,188百万円 (50.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	48.93	
2020年3月期第1四半期	109.82	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	157,588	89,987	56.9
2020年3月期	147,541	89,683	60.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 89,639百万円 2020年3月期 89,341百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		50.00		50.00	100.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		50.00		50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	77,000	14.9	2,900	30.7	3,100	29.7	2,200	32.0	133.69
通期	160,000	10.2	7,000	5.1	7,400	1.3	5,400	3.8	328.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	16,754,223 株	2020年3月期	16,754,223 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	297,875 株	2020年3月期	297,875 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	16,456,348 株	2020年3月期1Q	16,457,182 株

株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託に残存する自社の株式は、期末自己株式数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該信託が保有する当社株式の期中平均株式数は、前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間174,900株であります。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭用商品の需要が増加する一方で、主に外食向けを含む業務用商品の需要減退により売上高は減収となりました。このような状況の中、原料調達コストが良化したこと、油脂価格は正への注力や経費の抑制などに取り組みましたが、営業利益は減益となりました。また、特別利益では投資有価証券の売却益の計上、特別損失では東北の物流拠点で発生した火災による災害損失を計上いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高390億5百万円（前年同四半期比15.0%減）、営業利益10億96百万円（前年同四半期比42.4%減）、経常利益12億41百万円（前年同四半期比40.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益8億5百万円（前年同四半期比55.4%減）となりました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

## (油脂事業)

油脂事業環境につきましては、主原料である大豆相場は、新型コロナウイルス感染拡大懸念や南米の豊作観測の高まりから、4月は1ブッシェル当たり8米ドル前半まで下落しました。5月以降は中国による米国産大豆買い付けが確認されたことなどから上昇傾向に転じましたが、米国産地の天候に大きな問題が見られなかったことが上値を抑え8米ドル後半での推移となりました。菜種相場は、原油価格や大豆相場の下落に連れ安となり、4月は1トン当たり450加ドル付近まで下落しました。5月以降は原油価格の回復などを受けて上昇傾向に転じましたが、カナダ産地の天候回復による作付けが進んだことなどが重石となり、460から480加ドルのレンジでの推移となりました。為替相場は、経済活動再開への期待と新型コロナウイルスの感染再拡大懸念から、1米ドル106円台前半から109円台後半のレンジでの推移となりました。期中平均では前年同期と比較して円高ドル安となりました。

油脂部門においては、家庭用油脂は、新型コロナウイルス感染症の影響により家庭内調理の機会が増加したことで需要が拡大し、売上高は前年同四半期をわずかに上回りました。キャノーラ油の売上高は微増、オリーブオイルは新規購入者を含めた購入率の上昇により小容量品種が大きく伸びましたが、売上高はわずかに下回りました。健康価値の高い、えごま油・アマニ油・こめ油などの高付加価値品の売上高は好調に推移致しました。業務用油脂は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請や外食店への休業要請の影響を受け、外食企業を中心に油脂需要が減退し、売上高は前年同四半期を大きく下回りました。お客様の変化に対応すべく、テイクアウトや宅配等へのシフト、惣菜の個包装化や外注化を進められるお客様に対し、経時劣化耐性や調理感を付与する高付加価値品の提案を強化するとともに、長く使えるフライ油「長調得徳<sup>®</sup>」の価値訴求を強化致しました。

油糧部門においては、主たる需要先である配混合飼料の国内生産量は前年同四半期と同程度で推移しました。大豆ミールの販売数量は新型コロナウイルス感染症の影響により搾油量が減少したこともあり前年同四半期を下回りました。販売価格は前年同期比でシカゴ相場が安値、為替相場も円高水準で推移したことから下回りました。菜種ミールの販売数量は大豆ミール同様に減少し、販売価格は大豆ミール価格の低下により下回りました。この結果、油糧部門の売上高は前年同四半期を下回りました。

以上の結果、当事業は売上高328億22百万円（前年同四半期比15.5%減）、セグメント利益10億73百万円（前年同四半期比34.0%減）となりました。

## (油脂加工品事業)

マーガリン部門においては、家庭用はラーマブランド全品を対象とした消費者キャンペーンや、主力製品の「ラーマバターの風味」の増量キャンペーンを実施しました。これら施策に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による家庭内調理の機会の増加もあり、売上高は前年同四半期を上回りました。業務用では主力製品のグランマスター<sup>®</sup>シリーズにアイルランド産発酵バターを使用した製品をラインナップに加えて高付加価値品の拡販に努めましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によるインバウンド需要の減少、緊急事態宣言による外出自粛の影響を受け主として菓子用途の需要が減少し、売上高は前年同四半期を大きく下回る結果となりました。

粉末油脂部門においては、新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であり、需要は堅調に推移したものの工場稼働日数の減少もあり、売上高は前年同四半期を下回りました。

以上の結果、当事業は売上高28億86百万円（前年同四半期比10.9%減）、原料価格の高騰などにより、セグメント損失1億76百万円（前年同四半期はセグメント損失37百万円）となりました。

## (食品・ファイン事業)

スターチ部門においては、コーンスターチは食品用途および工業用途ともに不採算品の改善と拡販に取り組み、売上高は前年同四半期を上回りました。食品用加工澱粉は業務用向けの出荷が不調となり、売上高は前年同四半期を下回りました。高付加価値品である「ネオトラスト<sup>®</sup>」は品質・食感改良材として中食・外食向けに採用が増加しました。

ファイン部門においては、機能性素材の売上高は前年同四半期をやや下回り、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微でした。一方で、大豆たんぱくをベースとしたシート状調理素材SOYシートは、新型コロナウイルス感染症の甚大な影響を受けており、主要販売先である北米をはじめとする海外各地の外食店が閉鎖となったため、売上高は前年同四半期を大きく下回りました。

ケミカル部門においては、昨年度の消費税増税前の駆け込み需要の反動と新型コロナウイルス感染症の影響が重なって新設住宅着工戸数が前年同四半期を下回り、主たる需要家である木質建材産業の業績も同様に推移しました。また、原油価格の下落に伴い需要家からの値下げ要求が強まった状況下で、木質建材用接着剤の販売数量と販売価格の維持に努めましたが、売上高は前年同四半期を大きく下回りました。

以上の結果、当事業は売上高30億30百万円（前年同四半期比12.4%減）、セグメント利益1億44百万円（前年同四半期比41.3%減）となりました。

(その他)

その他の事業につきましては、売上高2億65百万円（前年同四半期比28.6%減）、セグメント利益54百万円（前年同四半期比18.5%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ10億47百万円増加し1,575億88百万円となりました。主な増加は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した安定的な運転資金確保のため借入金の見合いとして現金及び預金が140億13百万円、たな卸資産が23億39百万円であります。主な減少は、受取手形及び売掛金が56億円、有形固定資産が8億41百万円であります。

負債は、前連結会計年度末と比べ97億43百万円増加し676億円となりました。主な増加は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した安定的な運転資金確保のための借入金が150億円であります。主な減少は、支払手形及び買掛金が10億51百万円、未払法人税等が23億31百万円、賞与引当金が7億49百万円、流動負債その他が11億45百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ3億4百万円増加し899億87百万円、自己資本比率は56.9%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期以降も新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な状況ではありますが、期首時点における業績予想の前提は同感染症の影響による厳しい経営環境が第2四半期以降緩やかに回復していくと仮定しており、当第1四半期決算短信提出日時点における業績予想の前提に変更はありません。2021年3月期の連結業績予想につきましては、2020年5月18日公表の業績予想からの変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,429	22,443
受取手形及び売掛金	33,954	28,354
商品及び製品	12,959	15,163
原材料及び貯蔵品	15,800	15,936
その他	2,765	2,426
貸倒引当金	△1	—
流動資産合計	73,908	84,324
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,232	14,063
機械装置及び運搬具（純額）	19,971	19,802
土地	19,250	19,250
リース資産（純額）	1,704	1,648
建設仮勘定	787	329
その他（純額）	746	757
有形固定資産合計	56,692	55,851
無形固定資産		
投資その他の資産	1,467	1,390
投資有価証券	14,145	14,689
退職給付に係る資産	485	521
繰延税金資産	195	205
その他	715	677
貸倒引当金	△122	△122
投資その他の資産合計	15,419	15,971
固定資産合計	73,579	73,212
繰延資産	52	50
資産合計	147,541	157,588

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,441	11,390
短期借入金	—	15,000
1年内返済予定の長期借入金	600	600
未払法人税等	2,420	89
未払消費税等	368	36
賞与引当金	1,248	499
役員賞与引当金	71	18
その他	13,054	11,908
流動負債合計	30,205	39,543
固定負債		
社債	12,000	12,000
長期借入金	6,340	6,340
リース債務	1,497	1,448
繰延税金負債	986	1,469
役員退職慰労引当金	17	—
役員株式給付引当金	197	213
環境対策引当金	79	77
退職給付に係る負債	3,574	3,608
長期預り敷金保証金	2,297	2,297
その他	660	602
固定負債合計	27,651	28,056
負債合計	57,857	67,600
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	31,633	31,633
利益剰余金	45,335	45,306
自己株式	△1,085	△1,085
株主資本合計	85,882	85,854
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,787	4,158
繰延ヘッジ損益	93	49
為替換算調整勘定	31	9
退職給付に係る調整累計額	△454	△432
その他の包括利益累計額合計	3,458	3,784
非支配株主持分	342	348
純資産合計	89,683	89,987
負債純資産合計	147,541	157,588

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	45,895	39,005
売上原価	36,757	31,258
売上総利益	9,137	7,747
販売費及び一般管理費	7,234	6,650
営業利益	1,903	1,096
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	101	107
持分法による投資利益	72	50
受取賃貸料	6	42
雑収入	26	46
営業外収益合計	207	246
営業外費用		
支払利息	21	34
支払手数料	5	7
減価償却費	—	29
雑支出	5	31
営業外費用合計	32	102
経常利益	2,077	1,241
特別利益		
投資有価証券売却益	—	75
受取保険金	640	—
特別利益合計	640	75
特別損失		
固定資産除却損	17	17
製品回収関連損失	120	—
災害による損失	—	129
特別損失合計	138	146
税金等調整前四半期純利益	2,579	1,170
法人税、住民税及び事業税	520	53
法人税等調整額	249	309
法人税等合計	770	362
四半期純利益	1,809	807
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,807	805



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	1,809	807
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△518	380
繰延ヘッジ損益	△122	△44
為替換算調整勘定	0	7
退職給付に係る調整額	9	22
持分法適用会社に対する持分相当額	9	△36
その他の包括利益合計	△621	329
四半期包括利益	1,188	1,137
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,185	1,131
非支配株主に係る四半期包括利益	2	6

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
	油脂事業	油脂加工品 事業	食品・ファ イン事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	38,827	3,238	3,457	45,523	371	45,895	—	45,895
セグメント間の内部 売上高又は振替高	372	102	24	499	—	499	△499	—
計	39,199	3,341	3,481	46,022	371	46,394	△499	45,895
セグメント利益又は 損失(△)	1,627	△37	246	1,836	67	1,903	—	1,903

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
	油脂事業	油脂加工品 事業	食品・ファ イン事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	32,822	2,886	3,030	38,739	265	39,005	—	39,005
セグメント間の内部 売上高又は振替高	343	68	12	424	—	424	△424	—
計	33,165	2,955	3,043	39,164	265	39,429	△424	39,005
セグメント利益又は 損失(△)	1,073	△176	144	1,042	54	1,096	—	1,096

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。